

ワーク・ライフ・バランスの実現には

奥山 ここで「ワーク・ライフ・バランス」について一言お聞かせください。
諏訪 女性が働いていくというのは大変ですが、それを続けていくには、やはり周りのサポートと理解が必要なのかなと思います。

奥山 家族だけでなく社員とか地域の仲間あってこそその自分と、感謝する気持ちや忘れないということです。最後に皆さまに一言メッセージをお願いします。

諏訪 今日ご参加の皆さまに、「人生一度きりなので楽しんでください」というのが私からのメッセージです。私も自分の命が尽きる時にああ楽しかったと思えるような人生を歩もうと思っていますので頑張っていきたいと思います。

奥山 楽しんでいくことです！私は尽きない野心を持つことが大切だと思います。常に何かに挑戦していくこと、私も四十過ぎてから勉強したのはやっぱり野心があったから。それは立ち直る何かのきっかけにもなるんです。このことが皆さんに伝えるメッセージになるかなと思います。有難うございました。

女性と区長の懇談会レポート

7月12日エセナおおたにて、女性と松原大田区長の懇談会が行われました。区長との懇談会は、今年度3回行われる予定で、第1回目のテーマは「女性の社会・地域活動への参画」です。会場には様々な年代の女性25名が参加し、和やかな雰囲気の中、意見交換が行われました。

参加者の声

◆区内で働く女性経営者は、横のつながりがなかったために孤立しやすく、悩みを相談したり共有しにくい状況にある。同じ立場の女性達の交流の場やネットワークができるといいのではないかと。

◆情報を発信する時には、トップに立つような女性ばかりを取り上げるのではなく、身近なロールモデルがいることが伝わると、自分もやれるのではないかと刺激を受ける女性が増えると思う。

◆女性の参画には、パートナーがどのようなに働くかということも重要なポイントになる。男性も女性も、育児、家事、

介護、仕事を一緒に取り組んでいくことが必要だ。

◆国は、2020年までに政治や企業などでの指導的地位に女性が占める割合を30%に引き上げようという目標を掲げているが、大田区はまだまだ追いついていない状況にあると感じる。目標達成のために、女性の登用やワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組んでいる企業に利点のあるような制度を設けるなど、目標達成のための施策を行うことも有効ではないかと。

区長から

働く女性達の横のつながりがなく、状況は、女性が起業するにあたっての障壁の一つになっていると認識しています。なるべく多種多様な人と知り合い接することは、色々な意味でプラスになると思います。行政の役割は最初のきっかけを作ること、そこに自主的な盛り上がりや産まれればよいと考えています。ワーク・ライフ・バランスについて言えば、区の男性職員においてもまだまだ努力が必要だと思っています。例えば、育児休業取得では、24年度職員全体で育児休業取得者は66名、そのうち男性は1名となっています。



参加者からは、他にも色々な意見が出され、積極的な意見交換が行われました。直接区長に意見や要望を伝えられる良い機会でした。